

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年4月26日（月） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】 船木ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（6名） 船木地区コミュニティ推進協議会会長：長谷川 典彦 （社会教育推進委員会会長） 船木地区コミュニティ推進協議会副会長：田村 敦義 （まちづくりサークル会長・生涯学習作品展実行委員会会長） 船木地区コミュニティ推進協議会副会長：和田 嘉之 （自治会連合会会長・自主防災会会長・学校運営協議会会長） 船木地区コミュニティ推進協議会監事：高橋 修三 （体育振興会会長） 菅木（チシャノキ）水利組合代表：村田 英二 樺原水利組合副会長：山根 直巳 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、行政改革推進課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○新有帆川洪水ハザードマップについて 【自治会連合会会長】 ・新しい有帆川洪水時ハザードマップでは、楠総合支所と船木小学校が避難所になっているが、市街地住民は有帆川を越えて船木小学校に行く必要があり、速やかな避難は困難である。 ・船木ふれあいセンターが洪水時の緊急避難場所になっていないのはなぜか。また、船木ふれあいセンターが避難所として使えない場合、別の避難場所を確保してほしい。 ・実際に市街地が冠水するような雨量が予測されたとき、地域が適切に対応できるよう、宇部市の初動対応を説明してほしい。 ・自主防災委員を対象に新しいハザードマップの研修会を予定している。その際、市の担当者よりハザードマップの説明をしてほしい。

【市長】

- ・ 山口県河川課にも確認をしたところ、「有帆川との直線距離、標高、河川の流れのシミュレーション、特殊地形など様々な要因が影響して浸水想定区域が指定されている」とのことであった。ただし、防災計画と現実が合っていない地域があるため、第5次宇部市総合計画策定時に再度チェックし、地元に取り添った避難計画を策定する。
- ・ 初動体制に不備があったことから、再検討したい。現時点では、大雨・洪水注意報以上が発表された段階で警戒態勢をとり、避難が必要と判断した場合に避難情報を発令するルールであるが、実際には速やかに情報が届いていないと認識している。避難が必要な方が速やかに避難できる形を作りたい。
- ・ ハザードマップの説明については防災危機管理課職員を派遣する。日程等は、北部地域振興課に調整させたい。

○山根川大野井堰の点検・修理及び上流・下流の浚渫並びに川幅拡張の事業化について

【まちづくりサークル会長】

- ・ 山根川の大野地点は市街地冠水を避ける重要な箇所であるが、大野井堰の自動転倒堰が故障しており設備の修理が必要。また、上流下流の浚渫及び川幅拡張について市の助成支援も含めて検討してほしい。

【市長】

- ・ 市が、経費の一部を地元で補助する制度がある。農林整備課に事業の説明をさせたい。山口県土木建築事務所と情報共有をしており、連携して進めたい。

【苜の木水利組合】

- ・ 苜の木井堰の劣化により水流を止めるゲートが動かない状態である。また苜の木井堰からの用水路は過去災害の修繕ができず、現在は、本来用水路から流れる雨水が逆流する状況であるため、これらの修繕を要望する。

【市長】

- ・ 農林整備課に確認させ、事業の説明をさせる。

○「新郷ため池」「だるわらため池」に関する JR 西日本との折衝について

【榑原水利組合副会長】

- ・ 「新郷ため池」「だるわらため池」は昭和60年のJR西日本所有の山林崩落等により貯水機能を失い、用水路も一部が崩壊している。JR西日本へ対応を相談しているが、進展がないため、市も折衝に参加してほしい。

【市長】

- ・ 改めて現地確認をおこなった。JR西日本との協議主体は水利組合となるが可能な範囲で宇部市も支援し、JR西日本との協議は一緒に進めていきたい。

【榑原水利組合副会長】

- ・JR 西本との折衝について、地域としては法的な争いなどお金を出してまで行いたくはない。そこでどうにか市の支援を得て進めて行きたい。

【市長】

- ・法的には民事裁判となると思われる。民事裁判であれば行政が関係するためには法的な整理が必要。まずは法の面から担当部署で調査し整理したうえで一緒になって対応していきたい。

○鈍々川 ゴチ水門について

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・鈍々川 ゴチ水門は、度々の水流上昇の際に、せき止めが必要であるが、劣化がひどくゲートの巻き上げが大変であるため修繕を希望する。

【市長】

- ・早急に点検し管理者と協議のうえ、市の責任で実施する。

○防災屋外スピーカー等について

【自治会連合会会長】

- ・サイレンにかわり、防災屋外スピーカーを活用することになったが、試験放送では聞こえない地域があった。雨天時のテストを行い、聞こえない場合の代替方法について検討をお願いする。

【市長】

- ・防災スピーカーはあくまで屋外にいる人に一次的な危険が迫っている情報を伝えるもので、これだけで完璧なものとは考えていない。各地域からも防災ラジオのニーズは多く、しっかりと対応していく。
- ・避難が必要な時、必要なすべての方に情報が素早く届くことが大切であり、しっかり情報が伝わるようにしていきたい。

○メガソーラー設置に関する想定最大雨量時の下流への影響について

【船木地区コミュニティ推進協議会】

- ・船木地区奥畑自治会と山陽小野田市境界にメガソーラーを建設中であり、2年前に工事中の土砂流出があった。現在土砂は取り除かれているが、今後の大雨時の影響が懸念されるため、安全性を市にも検証してほしい。

【市長】

- ・現在ため池は浚渫されているとの事であるが、一度大丈夫でも数年後うまくいかなかったケースもある。大きな災害につながらないようにしっかり検証していく。

○優待乗車証適用について

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・宇部市高齢者バス優待乗車証について、小野田市・厚狭地区への適用をお願いする。

- ・また、優待乗車券は現在 70 歳以上になると全員配布されるが、申請者だけの対応でもよいのではないか。

【市長】

- ・予算の制限もあるが、現行制度を維持していくことが目下のミッションである。ポストコロナを見据え利用者の利便性の向上、財源確保を見極めながら、制度の拡大を考えていく。山陽小野田市とも連携し、対応したい。
- ・優待乗車券については、直ぐの制度変更は難しい状況であるが、バス利用者の動向も見極めながら高齢者への周知方法と合わせて今後の課題としたい。

○コミュニティバスの路線検討について

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・船木地区でも高齢化の進行が見込まれる。免許の返納を進める上でも、コミュニティバスを検討してほしい

【市長】

- ・まずは地域ニーズを把握する必要がある。そのうえで、現在のデマンドバス拡張の可能性、タクシー等の民間とのバランスを考えながら検討したい。

○「高齢者の見守り」について他地区への水平展開の提案について

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・高齢者見守り強化・孤独死防止のため、「船木あったか見守りネットワーク」を実施している。「高齢者見守り」の有効性を実感しており、高齢者総合支援課より他地域へ水平展開を提案する。

【市長】

- ・各地域の特色ある事例を紹介することで、地域間の情報共有を図りたい。

○「学校を核とした人づくり、地域づくり」「小中一貫教育の推進」について

【まちづくりサークル会長】

- ・「学校を核とした人づくり、地域づくり」について、地域に情報が行き届かず、十分理解されていない。子供達の活動に伝えられるよう、地域に説明をしてほしい。
- ・また「小中一貫教育の推進」については地域環境の違いもあるため、改めて地域の現状を把握したうえで推進の改善を希望する。

【市長】

- ・コミュニティスクール、小中一貫校については、単純な水平展開ではなく地域の現状にあわせた形を模索し対応する。市が求めていることも共有しながら、子どもたちにとって何が必要なのかを見極めながら対応したい。
- ・学校の統廃合についても各地域で話が出ている。小学校区の統廃合はコストではなく子どもたちの教育環境を考えて行う。新技術も取り入れながら教育環境のあるべき形を 10 年くらいの長期で考えていきたい。

○史跡の碑や看板等が傷んだときについての修繕ルール見直し、制度構築について

【まちづくりサークル会長】

- ・市の文化財指定でない住吉神社の看板劣化について、地元で対応した。今年度は山口ゆめ回廊イベントの開催も予定されていることから、これらの修繕に関するルールの見直しをお願いする。

【市長】

- ・旧楠町も含めた 100 周年であり、旧宇部市だけでなく旧楠町の歴史を振りかえりながら、次世代に残せるよう予算配分をしたい。

○北部 3 地区（吉部、万倉、船木）の将来構想について

【まちづくりサークル会長】

- ・北部 3 地区（吉部、万倉、船木）は中学校区での公助を基本とした対策が必要と考える。北部 3 地区の将来構想を聞かせてほしい。

【市長】

- ・北部 6 地区の皆さんと将来像をしっかりと共有したい。コロナ禍の中、地方移住に対するニーズも高まり、地方で子育てをしながら働きたいという声もあがっている。これらをチャンスとらえ、地域の可能性を考えたい。

○今後の市の農業政策について

【まちづくりサークル会長】

- ・高齢化により家屋付きの耕作放棄地が増えており、山間地での荒廃農地の拡大が止まらない。このままでは産廃の不法投棄も懸念される。国・県・市町が積極的に関わり耕作地の有効活用に取り組んでほしい。

【市長】

- ・今年から「農林水産業振興計画」を策定する。作物を作ってから売るまでを一貫し、専門的な知見を得ながら宇部市の農業施策を進めたい。農業者から話を聞きながら、農業を仕事に、子育てしながら暮らせる、若い人が参画できる農業政策、農業という「仕事」で好循環がうまれる環境を作りたい。

○船木ふれあいセンターへのエレベーター設置について

【船木地区体育振興会会長】

- ・高齢化が進む中でも施設を活用できるよう、船木ふれあいセンターにエレベーターを設置してほしい。

【市長】

- ・どの地区のふれあいセンターでもホールは 2 階以上にある。少子高齢化の中で、使いやすい施設のニーズを見極めながら、エレベーターの設置やホールを 1 階に置くなど、新しい施設の形も見据えて検討する。

○国道2号バイパスについて

【船木地区体育振興会会長】

- ・国道2号線は交通量が多いが、宇部市の区間については他地区のような拡幅やバイパス設置がされていない。国に拡幅などの改良を要望してほしい。

【市長】

- ・宇部市の2号線バイパスの整備は遅れていると認識している。地元負担も示しながら、国との信頼関係を構築したうえで、国と協議を進め、国道の整備に当たっていく。

○県道 小野田・美東線について

【まちづくりサークル会長】

- ・小野田・美東線について、街路樹が邪魔で見通しが悪い。船木ふれあいセンターを出たところのカーブミラーも街路樹が写りこみ、見えにくい。

【市長】

- ・要望箇所の街路樹については速やかに伐採し、植樹に適した秋以降に低木のヒラドツツジを植栽する予定。
- ・交通量が増えると生活道路に車が入り事故が起こることも想定し、急に車が増えた場合などがあれば、また相談してほしい。

○地域活動助成金額の見直しについて

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・地域活動助成金が80万円から70万円に減額された。このままでは十分な活動ができない。地域活動助成金の見直しをお願いしたい。

【市長】

- ・大切なのは、地域活動において活性化している事業が何かを見極めることである。地域行政としての在り方も含め、しっかり地域づくりをしている地区を見極めた支援していきたい。

○「地域力の管理項目と各目標値」、『第5次宇部市総合計画』について

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・地域活動の方向性を明確にするため「地域力の管理項目と各目標値」を明確にし、第5次宇部市総合計画に反映してほしい。

【市長】

- ・この制度は平成20年から平成30年まで据え置き、その後団体支援から活動支援に転換された。どういう部分で地域の活動が活性化している事業か見極める必要がある。地域行政としての在り方も含めて検討し、しっかり地域づくりをしているところに予算が当たるようにする。

○「ふれあい運動推進委員」の人選規定の70歳の年齢制限について

【まちづくりサークル会長】

- ・「ふれあい運動推進委員」の人選は、規定として70歳の年齢制限がある。今の時代に合わせて、年齢制限を撤廃してほしい。

【市長】

- ・70歳でも元気な人は多い。年齢で線引きするのではなく、何ができればよいか、委員として活動する内容に即した判断ができるようにする。

○降雨対策について

【船木地区コミュニティ推進協議会会長】

- ・当地区が一番の課題は、線状降雨帯のような大雨に対する水流の確保が重要である。

【自治会連合会会長】

- ・船木地区は盆地であるため山根川にすべて水が流れる。流れて出た場所は川が大きく曲がっており、そこに土砂がたまっている。通常は問題ないが、大雨が降った場合は冠水等の危険もある。その雨水が有帆川に流れることはなく、大野に向かって流れるのが実情であり、浚渫及び川幅の拡幅を検討してほしい。

【市長】

- ・緊急事態は発生するということを想定し、川幅の拡幅など県と相談しながら対応を進めていく。

○住環境整備について

【まちづくりサークル会長】

- ・船木に住むこどもたちの通学、塾への親の送り迎えの負担が大きい。田舎の良さを理解していても、交通、住環境、教育環境など、利便性が悪いところには現実的に住めない。年々人口が減っているのは非常に悲しい。

【市長】

- ・人口減少においては、産業と便利さを追求し、稼ぎながら生活できる環境の整備が必要と考える。中山間地域に住んでいても仕事ができ、そのうえで教育環境・交通環境の整備を進めていきたい。

○ネット環境について

【まちづくりサークル会長】

- ・利便性確保の一つとして、各家庭にネットワークがつながるシステムの導入だと思う。ネットワーク環境が整っていない家庭については格差が広がるのではないかと。

【市長】

- ・貸出用ルーターなども手配しながら、各家庭で勉強ができる環境を整えている。各ふれあいセンターでもネットワーク環境の確認をするように指示している。また、使い方が分からないという声もあり、使い方の研修を予定しているので活用してほしい。

○コンパクトシティについて

【船木地区体育振興会】

- ・コンパクトシティは田舎の切り捨てと感じる。市長はどの様に考えているか。

【市長】

- ・コンパクトシティと中山間地域の振興は相反する考えでもある。多くの取組が全国で行われながら、その多くはうまく進んでいない。行政の効率化という観点ではコンパクトシティは良い取組ではあるが、住みたい地域環境は人それぞれで異なるため、あまりこだわるものではないと考える。最低限のインフラ整備をすることで、住むエリアを選択できるまちづくりを進めたい。

○コミュニティスクールについて

【まちづくりサークル会長】

- ・コミュニティスクールについては、確かに学校と地域が連携してやっていかなければならない地域もある。船木の場合は、まだそこまでは至っていない、そのため地域の理解も進んでいないと感じている。一方的に全地域を同じ評価で判断するのではなく、地域の特性に応じた評価の仕方、推進の方法などを検討いただく方が良いと考えている。

【市長】

- ・地域によっていろいろなやり方がある。だから地域の特性が出せる。コミュニティスクールという取組は子供たちのため、そのために地域の理解が得られるように模索していきたい。

【市長】

- ・皆様のご要望・ご提言をしっかりと受け止め、第5次宇部市総合計画に反映していく。
- ・また、いますぐ対応できるものは担当課よりすぐに相談・対応をする。
- ・今日の意見交換会でおわりではなく、これがスタートだととらえている。
- ・引き続き各地区での意見交換をさせていただきながら、ひとつひとつの課題を対応していきたい。